

福島と近代絵画

主に明治時代から昭和戦前期にかけて活躍した、福島にゆかりのある画家といえば、どんな名前が浮かびますか？県内出身の人物、福島を訪れ福島を描いた人物。彼らの作品を載せた画集をはじめ、エッセイ、評伝などをご紹介します。
また、彼らの活動を支援した県内の人々についての資料も掲載していますので、ぜひ併せてご覧ください。

※「書」とついているものは、書庫の資料です。ご利用を希望される場合は貸出登録カウンターの職員までお申し出ください。「R」とついているものは、貸出のできない資料です。図書館の中でご覧ください。

■ 画家 ■

赤城泰舒 (あかぎ やすのぶ)

【明治22(1889)年6月20日～昭和30(1955)年1月31日】 静岡県生まれ。洋画家(水彩画)。明治39年大下藤次郎の内弟子となる。日本水彩画会創立に参加し、雑誌「みづゑ」の編集に従事する。「温泉場風景」(飯坂)などの作品を残した。

	日本の水彩画 18 赤城泰舒		第一法規出版	1989	L723.1/A3/1
書	歴史春秋 第33号		歴史春秋社	1991.1	L216/R2/25
	p78-96 「郷愁の水彩画家 赤城泰舒」(猪股恒三/著)				
書R	赤城泰舒遺作集	赤城泰舒遺作集刊行会/編	美術出版社	1956	LA721.9/A2/1

石井柏亭 (いしい はくてい)

【明治15(1882)年3月28日～昭和33(1958)年12月29日】 東京市下谷区仲御徒町(現・東京都台東区)生まれ。本名: 満吉。洋画家・美術評論家・詩人。本宮の豪農・伊藤家と親交を深め、その別荘「蛇の鼻御殿」に滞在し、作品を制作した。

	日本水彩画名作全集 2 石井柏亭		第一法規出版	1982	723.1/N2/2
書	畫の科學	石井柏亭/著	中央美術社	1925	724.3/1/
書	山河あり	石井柏亭/著	明日香書房	1948	721.9/1/
書	日本繪畫三代志	石井柏亭/著	創元社	1942	721/13/
書	柏亭自伝	石井柏亭/著	中央公論美術出版	1971	723.1/13/
書	美術の戦	石井柏亭/著	宝雲舎	1943	720.4/1/2
書	美術の常識	石井柏亭/著	東治書院	1933	720.4/1/
書	北米の山南欧の水	石井柏亭/著	新紀元社	1958	721.9/1/2

大下藤次郎 (おおした とうじろう)

【明治3(1870)年7月9日～明治44(1911)年10月10日】 東京本郷真砂町生まれ。号: 汀鷗。水彩画家。明治38年、水彩画の研究団体であり、美術出版社の前身である「春鳥会」をおこし、雑誌「みづゑ」を創刊。明治39年、日本水彩画会を創立。写生のため猪苗代や尾瀬を訪れ、会津における他の画家の水彩画作品の創作にも影響を与えた。

	大下藤次郎 アサヒグラフ別冊 美術特集 [日本編37]		朝日新聞社	1984	720.8/A3/37
書	大下藤次郎紀行文集	近藤信行/編	美術出版社	1986	915.6/O26/
書	水彩画家大下藤次郎	土居次義/著	美術出版社	1982	723.1/O4/
	日本の水彩画 1 大下藤次郎		第一法規出版	1989	723.1/N12/1
	水絵の福音使者大下藤次郎 画集	大下 藤次郎/[画]	美術出版社	2005	723.1/ホ05Z/
	水絵の福音使者大下藤次郎 評伝	大下 藤次郎/[画]	美術出版社	2005	723.1/ホ05Z/

小川芋銭 (おがわ うせん)

【慶応4(1868)年2月18日～昭和13(1938)年12月17日】 江戸牛久藩邸内に生まれる。本名: 小川茂吉(繁吉)。別号: 芋銭子、菖滄子、草汁庵。日本画家。喜多方美術倶楽部(後掲)の援助を受け、主に会津地方を訪れ、作品を描いた。最初期の代表作は裏磐梯を題材としたもの。

書	小川芋銭 茨城県近代美術館所蔵作品選	小川 芋銭/[画]	茨城県近代美術館	1998	721.9/O6/
書	禅機悠遊 小川芋銭と丹波	西躰巍禅/著	[西躰巍禅]	1995	721.9/o/
	池田龍一・小川芋銭往復書翰集	斎藤晃昇/著	斎藤晃昇	1995	L289/133/1

	小川芋銭日記「二一五帳」池田盟遺稿 草汁会の軌跡	小川芋銭/著 鈴木幸子	1995	L721.9/O3/1
	芋銭子春夏秋冬 俳匠としての小川芋銭	鈴木光夫/著 暁印書館	1990	911.3/O20
	小川芋銭画集	小川芋銭/著 日本経済新聞社	1988	721.9/O/5
	小川芋銭 アサヒグラフ別冊 美術特集 [日本編48]		朝日新聞社	1987 720.8/A3/48
書	小川芋銭の世界 河童はなぜ描かれたか	鈴木光夫/著 教育書籍	1987	721.9/O/6
書	小川芋銭 脱俗の田園画家(ふるさと文庫)上巻・下巻	津川公治/著 崙書房	1979	081.7/F/90-1 081.7/F/90-2
書	河童百図	小川 芋銭/[画] 茨城県立歴史館	2007	721.9/カ
	福島県文学全集 第2巻 第2期 随筆・紀行・詩編 昭和編1 p51-62 「福島飯坂滞留中日記」(小川芋銭/著)	澤 正宏/編 郷土出版社	2002	L918.6/F4/2-2
書	草汁漫画	小川芋銭/著 造形社	1976	721.9/O/4
書	さしえ名作選(双書美術の泉 9)	小川芋銭/著 岩崎美術社	1969	726.5/O/
書	芋銭	小川芋銭/画 日本経済新聞社	1963	721.9/O/2/
書	芋銭子文翰全集 上巻・下巻	小川芋銭/著 中央公論社	1939 1940	721.9/O/3-1/ 721.9/O/3-2/

勝田蕉琴 (かつた しょうきん)

【明治12(1879)年11月3日～昭和38(1963)年9月9日】 福島県東白河郡生まれ。本名：良雄。別号：研思荘。岡倉天心の推薦によって、インド王族タゴール家に招かれ渡印。仏教美術の研究、および仏画の制作を行なう。石井柏亭と同じく、本宮の伊藤家と親しく、「蛇の鼻御殿」にも滞在した。

	勝田蕉琴展 反骨の日本画家	勝田 蕉琴/[画] 福島県立美術館	1998	L706.9/F5/84
書	地域史研究講習会 平成15年度	福島県歴史資料館/[編] 福島県歴史資料館	2003	L210.07/F1/3-7
	「白木屋呉服店時代の勝田蕉琴 雑誌「流行」に集う画家たち」(渡辺智裕/著)所収。			
	棚倉史談 第6号		棚倉史談会	1980.1 L215/T3/1-6
	p97-99 「ベンガルの美術復興を助けた勝田蕉琴」(高良とみ/著) p100-108 「勝田蕉琴・タゴール・高良とみ」(山内一郎/著)			
	福島の進路 NO. 253		福島経済研究所	2003.9 L330.5/F3/54
	p37-42 「美を訪ねて 第10回 花鳥画の名手 勝田蕉琴」(酒井哲朗/著)			

近藤浩一路 (こんどう こういちろ)

【明治17(1884)年3月20日～昭和37(1962)年4月27日】 山梨県生まれ。本名：浩(こう)。別号：土筆居、画蟲齋。俳号：柿腸。洋画でデビューし、その後日本画・水墨画・漫画・挿絵などの制作も行った。「珊瑚会」に参加し、福島を訪れる。

	現代日本絵巻全集 12 近藤浩一路 中村岳陵		小学館	1984 721.2/G/12
--	------------------------	--	-----	-----------------

酒井三良 (さかい さんりょう)

【明治30(1897)年2月16日～昭和44(1969)年6月8日】 福島県大沼郡三島町生まれの日本画家。本名：三良(さぶろう)。「三良子」の落款を用いる。同郷の画家・坂内青嵐に師事。昭和36年日本美術院監事、翌37年第47回院展にて「かまくら」で文部大臣賞受賞。横山大観、安田靫彦、小川芋銭らと親交を結ぶ。

	画家とふるさと(世界美術双書)	小林 忠/著 東信堂	2002	721.025/K1/
	p3-12 「酒井三良 会津の冬景色」			
	酒井三良展 郷土を描き続けた画家	三島町/編 三島町	1997	L721.9/S5/1
書	酒井三良展 ふるさとを描きつづけた画家	喜多方市美術館/編 喜多方市美術館	2001	L706.9/K7/1-30
	人の暮しと自然を描く 酒井三良展	福島県立美術館/編 福島県立美術館	1990	L706.9/F5/39
	福島の進路 NO. 252		福島経済研究所	2003.8 L330.5/F3/54
	p31-36 「美を訪ねて 第9回 純朴の抒情 酒井三良」(酒井哲朗/著)			

竹久夢二 (たけひさ ゆめじ)

【明治17(1884)年9月16日～昭和9(1934)年9月1日】 岡山県生まれ。本名：茂次郎。画家、詩人。美人画、グラフィックデザイン、ポスターなど、今もなおファンが多い。全国を旅し「漂泊の画家」と言われたが、船引出身の代議士・助川啓四郎(後掲)と親友であったこともあり、福島にも幾度も訪れている。東山・飯坂・湯本などの温泉地に滞在し、作品を残した。

	美のおもちゃ箱	河野 保雄/編 芸術現代社	2009	L706.9/H1/8
	さまざまな画家たちの作品にエッセイを付した画集。p10-13 「竹久夢二「山へよする」」(菅野洋人/著)、p14-17 「竹久夢二「婦人グラフ」」(河野保雄/著)。			
	会津柳津文学の彩り 文人墨客八人が見た会津柳津	小野 孝尚/監修 奥会津書房	2007	L910.2/O1/1
	p[53]-57 「竹久夢二の短歌から」			

	大正期美術展覧会の研究	東京文化財研究所美術部/編	中央公論美術出版	2006	702.16/トウ055/ p253-272 「竹久夢二と大正期の洋画家たち」(桑原規子/著)
	企画展 挿絵と装幀の世界 竹久夢二 絵で描いた詩人	こおりやま文学の森資料館/編	こおりやま文学の森資料館	2004	L910.2/T5/1
	竹久夢二 新潮日本美術文庫 33	竹久夢二/[画]	新潮社	1996	720.8/S1/33
書	竹久夢二文学館		日本図書センター	1993	918.68/T11/1 -1~1-10 第1巻～第9巻と別巻の計10冊。第1巻・第2巻は詩集、第3巻～第6巻は詩文集、第7巻は歌集、第8巻・第9巻は童謡童話集、別巻は資料編。
	竹久夢二 アサヒグラフ別冊 美術特集 日本編55		朝日新聞社	1989	720.8/A3/55
書	竹久夢二とその周辺	和歌山県立近代美術館、 宮城県美術館/編	和歌山県立近代美術館	1988	726.5/T/12
	竹久夢二 子どもの四季 別冊太陽 絵本名画館	竹久夢二/著	平凡社	1988	J726.5/夕/
書	竹久夢二と抒情画家たち	細野正信/著	講談社	1987	726.5/H2/
書	竹久夢二正伝	岡崎まこと/著	求竜堂	1985	726.5/T/9
書	竹久夢二スケッチ帖抄 1906-29	竹久夢二/著	未来社	1984	726.5/T/8
書	竹久夢二 愛と詩の旅人	栗田勇/編	山陽新聞社	1984	726.5/t/
書	竹久夢二抄	尾崎左永子/著	平凡社	1983	726.5/T/5
書	愛せしこの身なれど 竹久夢二と妻他万喜	林えり子/著	新潮社	1983	726.5/T/4
	日本水彩画名作全集 3 竹久夢二		第一法規出版	1983	723.1/N2/3
	現代日本美人画全集 第8巻 竹久夢二	竹久夢二/著	集英社	1978	721/G/8
書	竹久夢二 カラーボックス	細野正信/著	保育社	1972	726.5/T/15
	竹久夢二	青江舜二郎/著	東京美術	1971	726.5/T/7
書	竹久夢二 紀伊國屋新書 A-41 夢と郷愁の詩人	秋山清/著	紀伊國屋書店	1968	726.5/T/
書	竹久夢二	木村毅/著	明治文献	1968	726.5/T/2
	夢ニグラフィック 抒情カット・図案集	[竹久 夢二/画]	ピエ・ボックス	2009	727.087/夕1092/
	夢二の千代紙で作る暮らしの小物 <small>暮らしを彩る折り紙・切り紙細工23品</small>	玉手理子/著	二見書房	2002	LA594.6/T1/1
書	夢二日記	竹久夢二/著	筑摩書房	1987- 1988	726.5/T/13-1 ~13-4 1(明治40年-大正4年)、2(大正5年-大正7年)、3(大正8年-昭和5年)、4(昭和6年-昭和9年)の4巻。
書	夢二の手紙	竹久夢二/[著]	講談社	1985	726.5/t/
	夢二美術館	竹久夢二/[画]	学習研究社	1985	726.5/T/11-1 ~11-5 1「宵待草のうた」、2「恋する女たち」、3「通りゃんせ」、4「港屋絵草紙店」、5「春の贈りもの」の5巻。
書	自伝画集出帆	竹久夢二/著	龍星閣	1958	913.6/T65/

長沢節 (ながさわ せつ)

【大正6(1917)年5月12日～平成11(1999)年6月23日】 福島県会津若松市生まれ。本名：昇(のぼる)。水彩画家として画壇で活躍するとともに、ファッション・イラストレーターとしても一世を風靡。また、映画評論やエッセイ等、文筆家としても知られる。日本を代表するデザイナー、イラストレーターを多数輩出した美術学校「セツ・モードセミナー」主宰。

	セツ神話 <small>ファッション、イラスト界をリードする長沢節とセツ・モードセミナーの40年</small>	朝日新聞社/編	朝日新聞社	1994	L289/N40/1
	長沢節 伝説のファッション・イラストレーター	内田静枝/編	河出書房新社	2004	L289/N40/2
	長沢節と風景たち	長沢節/著	美術出版社	1992	LA723.1/N1/1
	長沢節物語 セツ学校と仲間たち	西村勝/著	マガジンハウス	1996	L727/N/
	あいまいな色が好き。セツのおしゃれノート	長沢節/著	文化出版局	1994	LA593.3/N1/1
	大人の女が美しい	長沢節/著	草思社	1981	LA049.1/N7/1
	セツの100本立映画館	長沢節/著	草思社	1985	LA778/N1/1
書	デッサン・ド・モード 新版 新技法シリーズ 女と男の新しい形を描く	長沢節/著	美術出版社	1979	724.6/N/
	美少年映画セミナー	長沢節/[著]	角川書店	1994	LA778/N1/2
	わたしの水彩 新技法シリーズ114 水彩画家のエッセイと技法	長沢節/著	美術出版社	1980	LA724.4/N1/1

中村彝 (なかむら つね)

【明治20(1887)年7月3日～大正13(1924)年12月24日】 茨城県水戸生まれ。初めレンブラントに惹かれ、のちにルノアール調の描写を試み、晩年は幾何学的構成に挑戦した洋画家。白河は中町の実業家・伊藤隆三郎と親交を持ち、金銭面のみならず精神面でも支えられたという。

	現代日本美術全集 17 中村彝、須田国太郎	編集制作:座右宝刊行会	集英社	1973	720.8/G2/17
	生誕100年記念 中村彝・中原悌二郎と友人たち	「中村彝・中原悌二郎と友人たち」展実行委員会/等編	「中村彝・中原悌二郎と友人たち」展実行委員会等	1989	L706.9/F5/28
	中村彝 新潮日本美術文庫 37	中村彝/[画]	新潮社	1997	720.8/S1/37
書	中村彝	鈴木秀枝/著	木耳社	1978	723.1/N/2
	中村彝 アサヒグラフ別冊 美術特集 日本編63		朝日新聞社	1990	720.8/A3/63
	中村彝画集	中村彝/著	日動出版部	1984	723.1/N/3
書	中村彝とその周辺	中村彝/[ほか・作]	茨城県近代美術館	[199-]	708/N1/
書	中村彝の芸術(ふるさと文庫) 上・下	舟木力英/著	筑波書林	1991	081.7/F/299-1, 299-2
書	中村彝の全貌 開館十五周年記念	中村彝/[画]	茨城県近代美術館	C2003	723.1/ナカ03/
書	芸術の無限感	中村彝/著	中央公論美術出版	1963	723.1/N/

森田恒友 (もりた つねとも)

【明治14(1881)年4月9日～昭和8(1933)年4月8日】 埼玉県生まれの洋画家。小山正太郎、中村不折に師事し、東京美術学校に入学。挿絵、随筆、評論、水彩画、水墨画も手がけた。喜多方美術倶楽部(後掲)の支援を得て福島県を訪れ、「会津風景」などを描く。そのころ、油彩から水墨画へ転換したという。

書	森田恒友青年期素描集 20歳～21歳	森田恒友/[画]	高沢学園	1987	721.9/モツ1987/
書	平野雑筆	森田恒友/著	古今書院	1934	720.49/M2/
書	畫生活より	森田恒友/著	古今書院	1934	720.49/M2/2

結城素明 (ゆうき そめい)

【明治8(1875)年12月10日～昭和32(1957)年3月24日】 東京本所生まれ。本名:貞松。日本画家、随筆家。明治29年日本絵画協会に出品して1等褒状を受け、早くから認められる。大正12～14年の渡欧の際、白河の藤田弥五平衛の支援を受けた。

	藝文家墓所誌 東京美術家墓所誌續篇	結城素明/著	學風書院	1953	281.02/Y/
	東京美術家墓所誌	結城素明/著	結城素明	1936	702.8/Y/

■ 支援者 ■

喜多方美術倶楽部 (きたかたびじゅつくらぶ)

大正7年(1918)に、喜多方・山都を中心とする会津地方で、実業家や文化人たちによって結成された美術愛好会。多くの画家を会津に招いたり、作品を収集したりして、積極的な支援を行なった。

	会津人群像 第2巻第2号(通巻2号)		歴史春秋出版	2004.6	L291.6/A49/2
	p91-95 「喜多方と画家たち 喜多方美術倶楽部と大正浪漫」(後藤學/著)				
R	喜多方美術倶楽部と大正浪漫展		喜多方市美術館	1998	L706.9/K7/1-17

助川啓四郎 (すけがわ けいしろう)

【明治20(1887)年8月23日～昭和18(1943)年10月5日】 福島県田村郡片曾根村小沢(現・船引町)生まれ。政治家。早稲田大学専門部政経科に入学。竹久夢二と知り合う。村長、県議、代議士となり、主に農業方面で活躍する一方、そのネットワークと財力を用い、画会を開催したり、夢二の作品を掲載する雑誌を発行するなど、夢二の活動を支援した。精神面での支えにもなっていたという。

書	公民教育 助川の教育は生きている 私から見た助川啓四郎先生	柳沼角栄/著	柳沼角栄	2000	L289/S60/4
R	敬慕助川啓四郎先生の心	柳沼角栄/著	[柳沼角栄]	1988	L289/S60/2
	父助川啓四郎 一農村代議士の生涯	助川暢/編	助川かや子等	1992	L289/S60/3
	船引地方史研究 第13号		船引地方史研究会	2007.10	L214/F3/1-13
	p28-34 「白河厚生総合病院の創設と助川啓四郎代議士の人柄」(鈴木進/著)				